

あぜみち

No.10
平成27年2月1日

営農センター TEL 782-1171

稲作技術情報

～目指せ一等比率95%!～

1.平成26年の稲作状況について

平成 26 年産米の新潟県の作況指数は 101(547 kg /10a)、魚沼地域は 102 (528 kg /10a) で「やや良」となりました。収量構成要素は、登熟が「やや不良」でしたが、穂数、全籾数が「多い」となり、このような作況となりました。

品質面では、当 JA 管内のコシヒカリ 1 等比率が 85.3%となり、**昨年の 92.5%より 7.2%低下しました。**2 等以下の格落ち要因として、上位から**青未熟・除青未熟・部分カメ**となっております。特に青未熟・除青未熟が大部分を占めており、台風を含む気象条件によるものが大きいと考えられます。

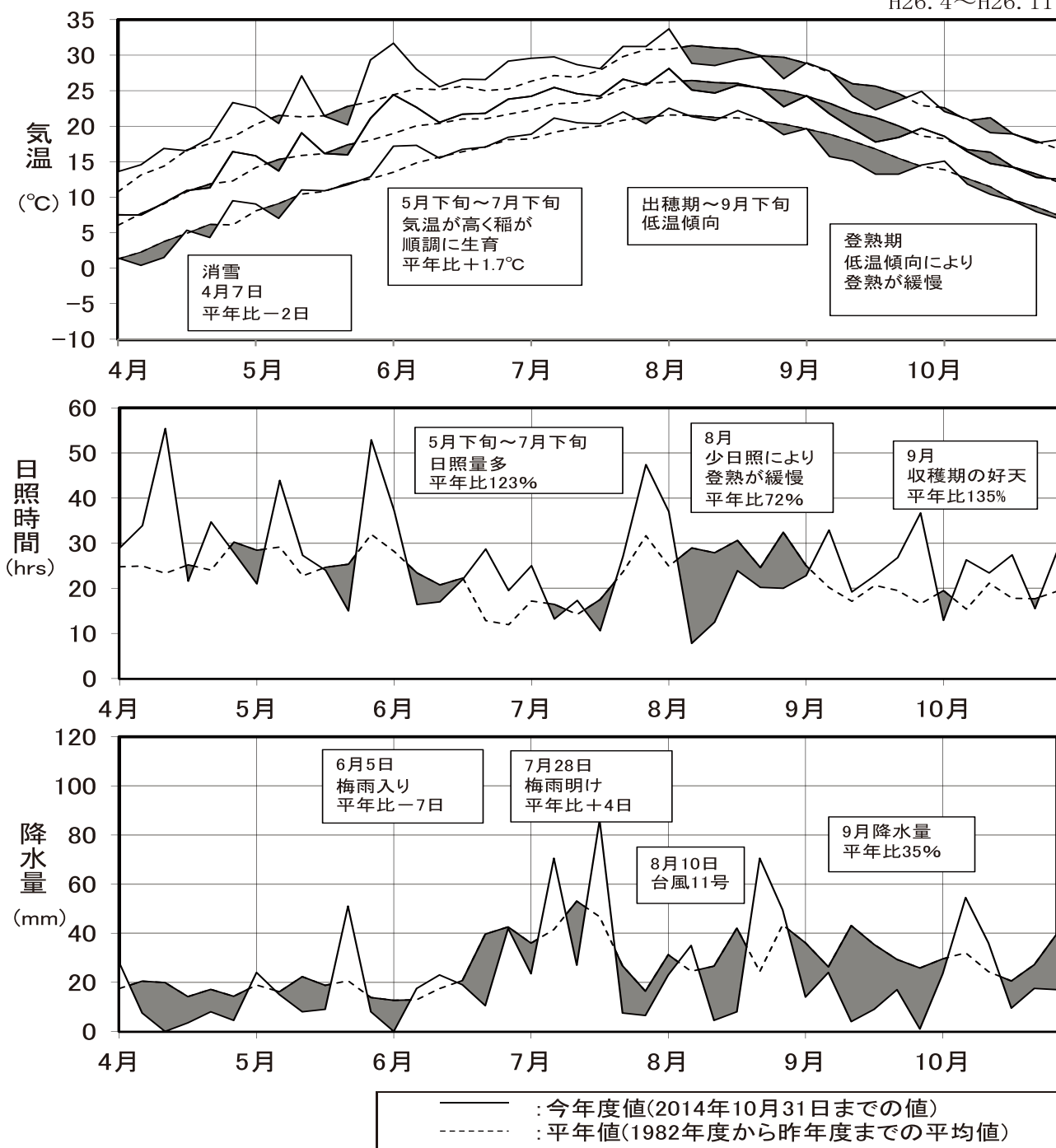
次ページより平成 26 年度の生育経過・品質低下要因等を振り返ります。

平成26年管内作業経過		
	塩沢地区	湯沢地区
播種最盛期	4月25日	4月23日
田植え最盛期	5月17日	5月24日
最高分けつ期	6月30日	7月4日
出穂期	8月6日	8月12日
刈取り最盛期	9月20日～23日	9月27日～29日

2.平成26年度 稲作栽培期間気象グラフ

(観測地点：南魚沼城内開発センター)

H26. 4～H26. 11



3.平成26年稲作生育経過

(1) 育苗期

- 消雪は4月7日で平年より2日早かった。
- 播種最盛期は4月25日で平年より2日遅かった。
- 育苗期間中は温暖な気象で育苗障害は少なかったが、苗姿は腰高でやや徒長傾向であった。

(2) 移植期～中干し・最高分けつ期

- 移植最盛期は塩沢 5 月 17 日、湯沢 5 月 24 日であった。
- 移植後、天候が温暖で活着がよく初期生育も順調であった。
- 5 月下旬から 7 月まで気温が高めに推移し、田植えの早いほ場では早期に中干しが開始された。
- 中干しの盛期は 6 月 20 日ごろであった。
- 中干し後は降雨が続き、効果が不十分なほ場もみられた。
- 最高分けつ期は塩沢 6 月 30 日、湯沢 7 月 4 日であった。

(3) 幼穂形成期～出穂期

- 7 月下旬までの高温傾向により幼穂形成期は早まった。
- 出穂期は塩沢 8 月 6 日、湯沢 8 月 12 日で平年並みであった。

(4) 登熟期～台風被害状況～

- 台風 11 号の影響により 8 月 10 日～ 11 日にかけて強風及びフェーン現象に見舞われ、管内でも**白穂、着色籾、不稔等の被害が発生した。**

○台風 11 号による風害発生状況 (8 月 19 日 振興局・市・JA 調査)

単位 ha

地区	作付面積	発生面積	白穂発生程度		
			少	中	多
石 打	270	0			
塩 沢	460	0			
中之島	640	23	23		
上 田	390	100	97	3	
湯 沢	179	0			
合 計	1,939	123	120	3	

○登熟期～収穫期の風害調査 (JA しおざわ調査)

単位 ha

地区	面積	被害面積		
		白 穂	濃褐色	薄褐色
中之島 (8 集落)	257.4	18.73	19.59	58.51
上 田 (13 集落)	292.5	21.11	35.03	32.25
湯 沢 (2 集落)	3		2	1

(5) 収穫期

- 田面の軟らかいほ場では倒伏が早期に見られたがその後の台風などの気象災害はなく、平年より倒伏面積は少なかった。
- 出穂期以降、**9 月下旬まで低温傾向であったため登熟は緩慢になり、刈取り適期判断が困難であった。**
- 収穫最盛期は塩沢 9 月 20 日～ 23 日、湯沢 9 月 27 日～ 29 日であった。

4.品質低下要因分析・次年度対策

1等比率は85.3%で、今年度の格落ち要因は主に**気象条件**(台風によるフェーン及び風害、低温、少日照)によるものが大きいと考えられます。格落ち要因は、栽培管理により品質低下を防げる事例も見られます。発生原因を知っていただき、活用をお願いします。

1.主な格落ち要因(2等以下のうち)

①青未熟粒 41.4%

特徴

粒の表面に葉緑素が残り、緑色を呈している。

発生原因

- 早刈り時の遅れ咲き粃や生育に差がある部分(水口など)での出穂の不揃いが多い状態で刈取りを行った場合に発生が増える。
- 低温による生育不良や多肥栽培などによる早期倒伏などで発生する。



②除青未熟(未熟粒) 41.0%

特徴

青未熟粒を除く、玄米の厚みが無く扁平な物や、幅が細い、表面の縦溝が深いなどの充実不足の粒

発生原因

- 登熟期の水不足、地力の低下(後期栄養不足)により、発生が増える傾向。
- 過剰生育、多粃数となると養分の供給が追いつかなくなり、発生が増える。
- 異常高温や強風フェーンなどで多発生を招く。



③カメムシ被害粒(部分カメ) 9.7%

特徴

カメムシ類等の吸汁により、米の一部が黒や茶・ロウ化の斑点となっている粒

発生原因

- カメムシの増殖地である畦畔・農道に雑草が繁茂しカメムシの密度が高くなっている場合に被害が増える。
- 斑点米の形成期間は、出穂期～登熟期間全般にわたるため、気温が高い場合に、活動が活発になり発生率が増加する。
- 畦畔・農道の草刈りを実施しているが、薬剤防除を未実施の場合について、発生している事例が見られる。



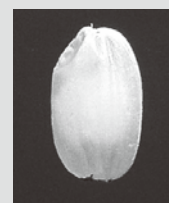
④心白粒(未熟粒) 5.2%

特徴

粒の中心部分が白く濁って見えるもの、白濁部分はデンプン粒とデンプン粒の間に隙間ができており、光が乱反射するため白く濁って見えるとされている。

発生原因

- 登熟期間の平均気温が高温の場合、発生が増える傾向にある。
- 多莖数、多粃数などの生育過剰状態となり、養分の供給が不十分な場合に発生が増える。
- 出穂期の葉色が薄い場合や冷夏時に発生が増加する。



2.栽培技術次年度対策

①耕深15cmの確保と継続的な土づくりの実践(後期栄養持続対策)

- 作土深が深いほ場では、**整粒歩合が高くなる**傾向があることから、**15cmの作土深確保**を目標とする。
- **土づくり肥料(特にケイ酸、鉄など)・堆肥等を施用**し、後期栄養を維持できる状態にする。
- **出穂1ヶ月前には中干しを終了**し、飽水管理を行い、根の健全化・根域の確保に努める。

②変動気象に対応できる栽培技術の実施

- 基肥量は穂肥を確実に施用できる量とし、**穂肥施用前に極端に葉色がさめない施用量**とする。
- 早期に茎数を確保し、**移植後30日を目途に中干しを実施**。あわせて溝切りも行う。
- 稲の生育を確保し、**出穂10日前に2回目の穂肥を確実に施用**する。
- 穂肥施用後にも葉色が高まらず、**高温登熟が予想される場合は、穂揃期前に追肥の検討**を行う。

3.JAしおざわ次年度取り組み

○栽培技術情報の正確・迅速な伝達

- 時期別の**稲作情報メール配信回数を増や**します。
 - 病害虫多発生、異常高温、強風フェーンなどが予想される場合に、**広報車による管内巡回やあぜみち特別号配布**を行います。
- ※稲作情報メールをご希望の方は、einou-s6@ja-shiozawa.or.jpへ「集落名」、「お名前」、「電話番号」を本文にご記入の上、メールをお送りください。
利用料や登録料は掛かりません。(通信会社の通信料は除きます。)

5.病害虫発生状況・次年度対策

いもち病

- 状況** 一部の従来コシヒカリ圃場で葉いもちの小発生が見られ、追加薬剤防除を行った。コシヒカリBLほ場においては一部で穂いもちの発生が見受けられたが、多発生事例は見られなかった。
- 対策** **すべての品種**において、箱施用薬剤等により、**葉いもち防除**を確実にを行い、**コシヒカリBL以外の品種は、穂いもち防除**を確実に行う。
オリゼメート剤が葉いもち予防には効果が高い。

ごま葉枯病

- 状況** 発生が随所で見られたが、多発生・穂枯れ症状は見られなかった。しかし、**砂質土壌・地力の低い圃場**では、軽症状で広面積に発生している事例が見られた。
- 対策** 地力の向上のため、**土作り肥料・堆肥の投入**を行い、**例年発生**する圃場については、**予防薬剤(ブラシン剤など)の散布**を実施する。
今年度、発生が見られた圃場は**ケイ酸分の不足**が考えられます。異常高温時には多発生し、品質・収量低下が心配されます。

カメムシ類

状
況

カメムシ類の発生量は、平年比並～やや多となり、発生量は増えた。
検査での斑点米による格落ちも見られ、特に早生品種(こしいぶきなど)
で被害が多く発生量が増えた。

対

畦畔・農道は、こまめに除草し、穂揃期には、水田内及び畦畔・農道に薬剤
を散布し防除を行う。
アカヒゲやアカスジ等に効果の高い薬剤(MR.ジョーカー、キラップ)を選択
する。防除の目安として、MR.ジョーカーは**2回散布**、キラップは**1回散布**。

策

※平成27年度の共同防除は1回散布でアカヒゲ・アカスジ等に効果が高い
キラップに変更となります。

その他害虫

(イネドロイムシ
イネミスウムシ
イネアオムシ
ウンカ類 など)

状
況

イネミスウムシ、イネドロイムシの発生・被害は平年並みであった。
ウンカ類(セジロウンカ)の発生は少なく平年並みであった。
遅植えのコシヒカリ、こしいぶきなど葉色の濃い圃場において
イネツトムシが多発生し、被害により、**品質低下・減収**が見られた。

対
策

箱施用剤等により、**早期に薬剤防除**を行う。**多発生時**には被害が広がる前
に**追加防除を確実に**行う。

カソロン粒剤散布でカメムシ類の発生を抑えましょう!

★カソロン粒剤の散布効果★

- 草刈りに比べ粒剤散布なので、散布が楽にできる。
- 残効が長く、夏の除草作業を軽減できる。
- 完全に枯らさず、景観を悪化させにくい。
- カメムシ類のすみかを無くすことで発生を抑制できます。

※カソロン粒剤を散布した畦畔では、6月下旬に雑草が再生してきても、カスミ
カメムシ類(第1世代)発生がみられず、高い発生抑制効果があります。

温湯消毒種子の取り扱いについて

JAでは安全・安心な米づくりを目指し、温湯消毒処理した種子粉を供給いたします。
温湯消毒のメリット、種子粉配送予定、注意事項等につきまして、お伝えいたします。

☆温湯消毒のメリット

- 種子消毒作業の**手間が省けます**。
- テクリードCフロアブル等の種子消毒剤を使わないので、種子消毒後の**廃液処理の
必要がありません**。
- 塩沢、湯沢地域の**広域で減農薬化を図る**ことができ、消費者に減農薬栽培をPR
することができます。
- 今までの**種子消毒剤使用時よりも安価**になり、生産費を抑えることができます。

☆**温湯消毒料金** 種籾1kg あたり**59** 円 (税込み) となります。

☆**種子籾配達の予定**

2月下旬～3月下旬に配達を予定しています。

- ①コシヒカリの種籾袋の色は青色になります。
- ②こがねもちの温湯消毒を行いません。

☆**温湯消毒種子の取り扱い注意事項**

温湯消毒に際しては万全な管理を行いますが、種子籾配布後の取り扱い・保管管理等には、以下の事項に注意して下さい。

- ①種子籾の配布後は、雑菌や発芽障害（水濡れ等）が発生しない**風通しの良い**ところで保管して下さい。（**ビニール袋等で密封はしないで下さい**）
また、**ネズミ等の被害防止**も徹底して下さい。
- ②種子消毒剤のテクリードCフロアブルは不要となりますが、**薬剤による種子消毒に比べ一部効果が劣ります。（褐条病等）**育苗消毒剤であるカスミン剤、タチガレエース剤、ダコニール剤は従来通り使用し、育苗中は、30℃を超える高温にならないよう管理して下さい。
- ③温湯消毒の防除効果不足を補う方法として、**タフブロック剤（微生物資材）を使用すると防除効果の向上**が期待できます。
- ④種子袋ごとにカードが付いています。**種籾保証書と同様の役割**をしますので、**1年間は保管**をお願いいたします。また、**温湯消毒処理日も記入**してあります。**生産履歴記入の際**にご使用ください。

注 意

JAでは生産者様からお申し出の無い場合は全量温湯消毒いたしますので、温湯消毒処理の不要な方は、お手数ではございますが、確実にご連絡いただきますようお願い申し上げます。

変更期限／2月13日(金) まで

ご不明な点・ご質問につきましては、**営農センター（782-1171）**までご連絡下さい。

園芸情報

園芸作物を作ってみませんか!

新潟県は元来、米生産に適した水田が多く、とりわけ雪深い魚沼地方では園芸作物栽培が限られています。そんな中、当農協管内では、現在いくつかの品目が栽培され出荷されています。(下表：園芸作物収支計画モデルをご参照下さい)

JALしおざわ・全農にいがたでは、複合営農による農業所得確保の観点から、稲作経営者の皆様に園芸作物の生産振興・作付け拡大を進めています。

園芸作物作付け希望や興味のある方は、下記の「園芸作物栽培説明会」を開催いたしますので、ご参集下さい。

【記】

1. 期 日 平成27年2月18日(水)
2. 時 間 午後1時30分～
3. 会 場 JALしおざわ本所3階 「第1会議室」

※出席希望の方は会場準備の都合上、2月13日(金)までに、営農センター(782-1171)園芸担当まで、ご連絡下さい。

○主な園芸作物の収支計画モデル

10aあたりの試算

品 目	目標 収量 (kg)	目標 単価 (円/kg)	粗収入 (万円)	流通 経費 (万円)	栽培 経費 (万円)	経費計 (万円)	所 得 (万円)	1戸当たり 栽培可能 面積(a)	備 考
ズッキーニ	2,000	250	50	14	20	34	16	20	約600本の苗が必要
カグラナンバン	1,500	350	53	13	20	20	33	3	約1,100本の苗が必要
巻機ナス (ナシナス)	2,000	300	60	14	20	34	26	5	約750本の苗が必要
秋冬ネギ (やわ肌)	3,000	250	75	20	20	40	35	5	チェーンポット70枚が必要。 大面積は皮むき機 (コンプレッサー)が必要。
アスパラガス (4年目以降)	800	1,000	80	9	20	29	51	30	約1600本の苗が必要。 1年目からの収穫とはならず、 3年目から本格収穫となります。 大面積の場合は、選別機も必要。
加エトマト (ジュース用)	6,000	48	29	0	10	10	19	10	約1200本の苗が必要。 カゴメジュース用、単価 は決まっています。
業者向け コンニャク芋	2,000	210	42	0	20	20	22	10	初年度は種芋を導入し、翌年用 の種芋生産が必要。 冬期間腐らせないよう保管しな ければならない。単価は決まっ ています。
養液土耕 カゴメトマト	5,000	300	150	13	100	113	37	4	約1200本の苗が必要。カゴメ 生食用、単価は決まっています。 機材の減価償却費込みです。 既存の2a(3間×20間)等 の育苗ハウスを利用。

※目標収量・単価・経費については全農新潟の指針およびJALしおざわ26年度取り扱いの数字を使用しています。

※1戸当たり栽培可能面積は、1～2名で行った場合の数字です。

※アスパラガスは、株養成のため1～3年目は所得金額が減少します。